

漆－東洋の美を彩る素材

2022年5月28日(土)－7月3日(日)



【開催趣旨】

中国・明時代の漆工品である龍文堆黄円盆および双龍文堆黄長方盆の修復完成を記念し、漆の美を探求する展覧会を開催します。

漆、それはアジアの人々が発見した不思議な素材です。塗料・接着剤として用いられた漆は、長い時間をかけて地域ごとに独自の技法が磨き抜かれていきます。本展では東アジアにスポットを当て、中国、朝鮮、そして日本で育まれた多彩な漆工品について、それを生み出した技法とともにご紹介します。今回一挙に公開する住友コレクションの漆工品は、茶室、能舞台、香席、酒宴、書齋……かつて様々な場に顔をのぞかせた「実用」の品でした。会場では、漆が彩った近代数寄者の暮らしについても探ります。ただ、漆の美も時の流れによる劣化には逆らえず、何百年にもわたって愛玩して伝えていくには定期的な修復を必要とします。展示では修復後初公開となる堆黄盆を例として、最新の修復技術もご紹介いたします。

【開催概要】

名 称 漆－東洋の美を彩る素材

Urushi : The Material Enhancing the Beauty of East Asia

同時開催：青銅器館「中国青銅器の時代」

会 期 2022年5月28日(土)－7月3日(日) (32日間)

休館日 月曜日

- 会 場 泉屋博古館（京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24）
〔開館時間〕10時～17時（入館は16時30分まで）
- 入館料 一般800円／高大生600円／中学生以下無料
※20名以上は団体割引20%、障がい者手帳ご呈示の方は無料
- 主 催 公益財団法人 泉屋博古館、京都新聞
- 後 援 京都市／京都市教育委員会／京博連／公益社団法人京都市観光協会／
NHK京都放送局
- 特別協力 目白漆芸文化財研究所

【会期中のイベント】 入館料のみでご参加いただけます

場所 泉屋博古館講堂

定員 40名、事前申込制（先着順）

当館WEBサイトもしくは電話075-771-6411にて5月10日午前11時から受付開始

●「漆工品をめぐる修復技術」

日時 6月4日（土） 14時～

当館所蔵の龍文堆黄円盆および双龍文堆黄長方盆の修復を担当くださった目白漆芸文化財研究所から室瀬智弥氏、鷺野谷一平氏をお招きし、漆工品の修復についてお話を伺います。また漆芸作家として制作活動をなされているお二人。漆作品がもつ魅力についてもお話いただきます。

講師 室瀬 智弥 氏（目白漆芸文化財研究所）

鷺野谷 一平 氏（目白漆芸文化財研究所）

●「近代数寄者たちの漆のある暮らし」

日時 6月25日（土） 14時～

関西を代表する近代の数寄者、村山龍平（号 香雪^{こうせつ}、朝日新聞創業者）、住友友純（号 春翠^{しゅんすい}、住友家15代当主）のコレクションをそれぞれ継承する美術館の学芸員が集って、数寄者が愛した漆工品の魅力を語り合います。

対談 田淵 可菜 氏（中之島香雪美術館学芸員）

森下 愛子（泉屋博古館東京学芸員）

聞き手 竹嶋 康平（泉屋博古館学芸員）

■青銅器講座 「中国古代における鳥の造形－その機能と神話－」

日時 7月2日（土） 14時～

講師 小南 一郎（泉屋博古館名誉館長）

【テーマ集】 第1章 うるしをめぐる技 一彫漆・螺鈿・蒔絵

多彩な発展を遂げてきた漆の技法に迫ります。



八吉祥文堆朱如意
清時代・17～18世紀（泉屋博古館）

何層も漆を塗り重ねてから文様を彫り込む彫漆技法



仙人図螺鈿食籠
元時代・14世紀（泉屋博古館）

漆黒に貝殻が輝き光る



月日貝椿蒔画香合
江戸時代・17世紀（泉屋博古館東京）

貝殻の上にも蒔絵はできます

第2章 うるしのある暮らし① - 酒宴

漆はかつて今以上に生活に身近な存在でした。
そうした日々の暮らしのなかから酒宴の場で用いられた漆工品をご紹介します。



京名所黒漆塗膳「下鴨社」（下絵：原在泉）
明治時代・19～20世紀（泉屋博古館）

画家たちが描きつなぐ京都名所リレー

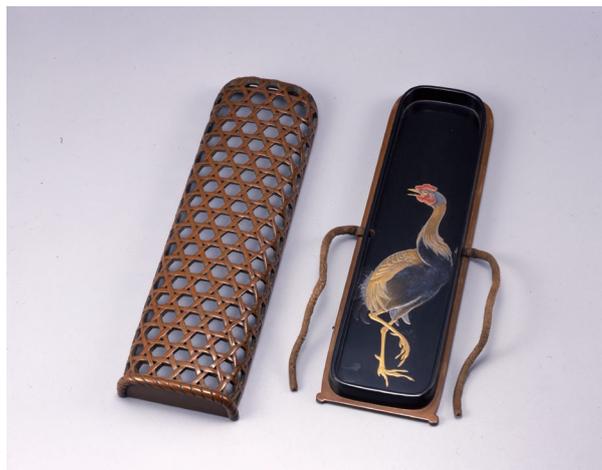
第3章 うるしでめぐる三都 - 京都・大阪・東京

対照的な都市のカラーを持つ三都では、それぞれ個性豊かな漆芸作家が活躍します。
街の性格が漆工品にも反映されるものなのではないでしょうかー 展示室で探索します。



象彦（八代 西村彦兵衛） 扇面謡曲蒔絵会席具
大正時代・20世紀（泉屋博古館）

漆器の都ぶり



柴田是真 軍鶏蒔絵文箱
江戸時代・19世紀（泉屋博古館東京）

近代蒔絵の地平を切り開く

第4章 うるしのある暮らし② - 茶会・香席・能舞台

茶の湯・香道・能楽といった伝統文化の世界でも愛されたのが漆工品です。
それぞれの場を彩った作品をご紹介します。



青貝芦葉達磨香合

明時代・16世紀（泉屋博古館東京）

足利義政、織田有楽斎の手にも渡った
名物



秋草蒔絵十種香箱

江戸時代・17～18世紀（泉屋博古館東京）

香りの世界へ誘う蒔絵のきらめき



打出木槌蒔絵大鼓胴

江戸時代・18～19世紀（泉屋博古館東京）

能舞台をいろどる鼓、木槌の木目を
蒔絵で表現しようとしたところに
ご注目

第5章 美術品をめぐるうるし —うるしは名助演

美術作品の意外な場所にも漆は隠れています。
様々なジャンルの作品から実は漆が用いられている場所を見つけ出します。



輪花形朱塗天目台
元時代・14世紀（泉屋博古館東京）

天目茶碗を下から支える名脇役

第6章 うるしをよみがえらせる技 – 漆工品の修復現場

漆は優秀な接着剤にしてコーティング剤。

しかし、時の流れの劣化にはどうしてもさからえません。

そのような時、漆工品はどのようにして修復されるのでしょうか。

文化財修復の最前線をご紹介します。



龍文堆黄円盆

明・万暦 17 年（1589 年）（泉屋博古館）

中国明代漆器の名品、修復後初公開！！

【連絡先】 泉屋博古館（京都）広報担当 pr-kyoto@sen-oku.or.jp

606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24 泉屋博古館

TEL 075-771-6411/FAX 075-771-6099

HP <https://www.sen-oku.or.jp/kyoto/>

企画展「漆 — 東洋の美を彩素材」

会場：泉屋博古館 広報画像貸出申込書

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、以下の作品画像をデータでお貸出いたします。申込書のご希望の図版に を記し、用紙を FAX またはメールにて返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出する画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

 <p><input type="checkbox"/> 龍文堆黄円盆 明・万曆 17 年 (1589)</p>	 <p><input type="checkbox"/> 象彦(八代 西村彦兵衛) 扇面謡曲 蒔絵会席具 大正時代・20 世紀</p>	 <p><input type="checkbox"/> 八吉祥文堆朱如意 清時代・17~18 世紀</p>	
 <p><input type="checkbox"/> 月日貝椿蒔画香合 江戸時代・17 世紀</p>	 <p><input type="checkbox"/> 柴田是真 軍鶏蒔絵文箱 江戸時代・19 世紀</p>	 <p><input type="checkbox"/> 戸島光孚 枝垂桜蒔絵手箱 大正時代・20 世紀</p>	 <p><input type="checkbox"/> 打出木槌蒔絵大鼓胴 江戸時代・18~19 世紀</p>
 <p><input type="checkbox"/> 青貝芦葉達磨磨香合 明時代・16 世紀</p>	 <p><input type="checkbox"/> 仙人図螺鈿食籠 元時代・14 世紀</p>		

● 貴社基本情報

貴社名：	
媒体名：	ご担当者名：
発行日／放送日：	URL：
ご連絡先	
住所：	
電話・FAX：	E-MAIL：

● 読者プレゼント用チケット希望：

5 組 10 名様

10 組 20 名様

掲載に関するお問い合わせ先 泉屋博古館 (担当：坂井)

606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24 TEL：075-771-6411 FAX：075-771-6099 E-mail：pr-kyoto@sen-oku.or.jp